

退職校長会だより

発行／北海道退職校長会

☎・FAX (011) 857-6266

✉ htko500@gmail.com

URL <https://htko500@wixsite.com/jimu>

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条11丁目7-32 札幌市立あやめ野小学校内

No.250



成長期における個性と自由の育成は、 基礎基本的人間性の習得といかに関わるのか

北海道退職校長会 札幌白石支部長

遠藤 龍三助

義務教育学校を退職して23年。初任者として小学校5年間・中学校33年間で勤務して常勤の学校教育者としてピリオドを打ったつもりであったが、その後のめぐり逢いによって、幸いにも学校教育に関連した職種に身を置くことができています。

具体的には、今年4月より札幌市のある小学校で「相談支援パートナー兼学びのサポーター」として、1年生から6年生までの全校児童の個々の学習状況や不登校児童指導に関する業務を、非常勤のボランティア的教育活動として委託されている。実は3月まで、同じ仕事を南区の中学校で4年間行っていた。初任者の5年間を除き実に33年間プラス4年間中学校教育に携わってきたのであるから、教育の今日的改革は直ぐには消化できないのは当然であるが、一部ではあるが教育を受ける児童とその指導者たる教師の教育的活動の一部の変容を見ることができる。

ある学校では、多くの児童が個性を発揮し、自由を気ままに謳歌していると言っても過言ではない学級経営が展開されている。例えば、ある授業で教師が説明をしている時に、ある児童は教卓にデーンと座り、またある児童は座席の離れた児童の所に行き、私語。そして驚くことに説明をしている教師の面前に立ち、教師を殴ろうとする仕草までをする。

そうした児童の行動に教師は、はた目からみると「無視」そのもの。こうした状態は日

常的に展開されている。今春、中学校から異動してきたスクールカウンセラーも「相談室便り」で、今育てなければならない基礎的習慣について、①個性や自由が発揮される基礎的習慣が身についていない個性は単なるわがまま・自我の発揮に過ぎない②それらが身についていないのに「個性の尊重」「個の自由」などという飛躍した考えが大人の現代社会を侵食しつつあると執筆している。まさにその通りで、小中学校の児童・生徒は集団の中における社会性を身に付け、人としてやがて社会に出る時、自己のもつ自主性主体性を醸成し、そのもとに社会人として本当の個性・自己の発揮・自由が発揮され行動できるのである。つまりこの時期は自我に対しての基礎的訓練の場なのである。

数年前に札幌すすきので発生した殺人。死体のその首を持ち去るという猟奇殺人事件。その親は精神科医で、被疑者の娘は小学校から、本人の主体性・個性を尊重するために嫌な学校には登校させていなかったという。現職時代に子どもの主体性を尊重するために、無理して登校させない(病的原因は別)と言う保護者を何人も経験しているが、こうした子どもたちが現実の集団社会に出た時、多様化し混迷する実社会でどのように自己を発揮し、社会と協調していけるのだろうか。「今は昔なりけり」なのであろうか。

報告

令和7年度 支部代表者会

期 日 令和7年10月21日(火)

会 場 ホテルライフオー・札幌

令和7年度支部代表者会は、10月21日(火)ホテルライフオー札幌において、全道23支部の代表者等、本部役員合わせて41名が出席し開催された。

1 開会(進行 大向副理事長)

2 会長挨拶 佐藤 晴樹 氏



今年度、北海道退職校長会は、60周年目を迎え、5月に記念式典・祝賀会を開催しました。そして、8月には記念誌『道程』が発行されました。皆様方には、何かとご協力をいただき、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

同じく全国連合退職校長会、全連退も今年度、設立60周年を迎えました。10月7日、記念式典・祝賀会が開催され、歴代の会長3名と私とで参加して参りました。文科大臣の来賓祝辞の中で、文科省の政策に全連退からも後押しをしていただいていた感謝しているとの話もありました。

先立って9月20日、網走で地域懇談会がありました。副理事長と私とで参加しました。後ほど報告がありますが、北見支部では教員退職者が加入する北親会の存在があり、さらに現職校長の意識の高さに強く感銘を受けました。網走支部では、少ない会員ですけれども、現状に合った活動を地道に進めていることに改めて敬意を表します。

さて、本日の支部代表者会、遠くからもご参会いただき、ありがとうございます。JR、バス等の本数も限られ、来るのもなかなか大変だったと思います。

支部代表者会は、会の運営について連絡・協議する会として位置付けられています。定期総会に続き、支部の皆様と直接面しての会になります。本会ですが、残念ながら会員の減少等で大変厳しい状況にあります。会務運営検討委員会を立ち上げ、事業の見直しを検討しています。支部代表者会の中での支部交流で、事業の見直しについて皆様方からご意見をいただきたいと思います。いただいたご意見を会務運営検討委員会でさらに検討し、3月の理事会、そして5月の定期総会で皆様にご報告できればと考えています。

3 報告・協議

(1) 事業の執行状況及び今後の計画

①事務局(鈴木理事長)

- ・業務執行状況と今後の予定の報告
- ・理事会・総会報告
- ・全連退副会長会(佐藤会長)
各省庁への要請活動・文科省との懇談
- ・会計中間報告(羽川事務理事)

②組織部(栗原部長)

- ・新入会員者48名
(役職定年者 全校種計299名)
- ・準会員29名(小樽小中・室蘭中)
- ・会員名簿と組織拡充についての説明

③広報部(岩田部長)

- ・249号の紙面構成(全12Pで編集)
- ・250・251号の発行予定
- ・会報誌の編集作業の見直し

④情報部(駒形部長)

- ・令和7年度上寿者・米寿者の調査・集計と全連退への報告(該当者の名前の確認)
- ・叙勲受章者関係の調査と会報への掲載
- ・「はるにれ」の執筆計画

(2) 「北海道教育の日」道民運動推進協議会の取組(川島副理事長)

- ・11月4日の制定記念行事の概要(講演)
- ・実践資料集第19集は、2月上旬に発行予定

4 支部交流

(1) 道東 北見・網走 地域懇談会報告

(2) 会務運営検討委員会状況報告

(3) 支部交流

- ・今後の支部代表者会の在り方について
- ・今後の会務運営全般について
- ・慶弔規定等について



今後の支部代表者会の継続の可否や会員数減少に伴う会務運営の在り方に関して、様々な意見が出ました。

5 連絡

6 会長挨拶 佐藤 晴樹 氏

北海道退職校長会には、活動の目的が大き

く2つあります。1つ目は、教育の振興のため、学校支援・学習支援、それから文科省等への要望活動につながっていると思います。2つ目は、生きがいのある充実した生活を送るため、会員同士の研修会や懇親会につながっていくだろうと思っています。

このように60年にわたって灯されてきた火を消すことなく、皆様方の様々なご支援をいただきながら事業を進めていきたいと思っています。

7 閉会 (大向副理事長)



2020年に発生した新型コロナウイルスは全世界に感染を広げ、未曾有の流行は私たちの生活を大混乱に陥れました。政府や自治体は感染防止の対策を発動し、各業界・業種は制限や自粛のために、多大な損失を生じることとなったのです。私たちの生活も、大変な不自由を強いられました。人と人との関わりが必要最低限に制限され、学校では教室から子どもたちにとって大切な言葉や歌声が奪われました。

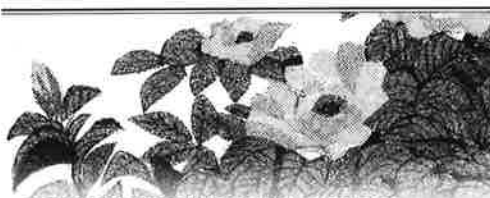
2023年5月8日に厚生労働省から新型コロナを5類移行とする措置及び基本的感染対策が発表され、その後2年が経過して、社会や人々の動きが復活し、私たちは日常を取り戻してきました。そのこと自体は大変喜ばしいことでありますが、果たしてそれだけでいいのでしょうか。

この3年間の新型コロナに対する様々な政策や対応について振り返り、正しく評価できたでしょうか。被害状況や対策の成果

と課題などの総括について私は寡聞にして知りません。「様々な対応の中には誤りや過剰な反応はなかったか。対策のため費やした国家的予算は妥当であったか。」など、今こそ国、自治体、医療や教育機関など各関係機関は検証しなければならないと思います。

また、マスコミは自らの報道について振り返ったのでしょうか。いたずらに同調圧力を生むような煽りはなかったのでしょうか。昨今のテレビ関係者の不祥事を見るに大変怪しいと思われるので、厳しく自己反省し自浄努力をしなければなりません。

今後、世界を揺るがす感染症や災害が起こる可能性もあります。その時、最小限の損害・損失、対応の制限、不自由さにとどめることができるよう準備しておきたいものです。私たち自身が自覚や心構え、備えをもつためにも、必ず検証をすべきと考えます。(福家 尚)



はまなす評論 227

検証はできたのか ～新型コロナ禍～



令和7年度
北海道教育の日

第18回 制定記念行事 開催

テーマ 「あなたはだれかのために、何ができますか？」
～子どもたちに「共に歩もうとする力」を！～

黄金色に輝く銀杏並木、秋も深まる11月4日、「北海道教育の日」第18回制定記念事業がホテルライフオー札幌で開かれた。今年は75名が参加し、講話は退職校長会HP、北海道教育委員会公式noteにてYouTube配信した。



冒頭、倉本博史会長は、教員不足が続いているが「子供たちのなりたい職業」の調査では、「教員」はあこがれの仕事である。学校は「教

えること」と「学ぶこと」が往還する場である。本日の講演では、子どもたちが、自らの可能性を最大限に発揮し、希望を持って社会の中で生きていく力を身に付けるそうした教育のあり方について考える契機としたい。「北海道教育の日」を契機に、10年先、20年先に向けて、子どもたちの健やかな成長を育む取組が各地に広がっていくことを祈念すると挨拶があった。

続いて、来賓の北海道教育委員会教育長中島俊明様からは、教育は、子どもたちが多様性を尊重し、夢や目標に向かい進んでいけるように支える重要な役割を担っており、北海道教育委員会は「北海道教育推進計画」に基づき、社会的変化を乗り越えることができる資質・能力の育成、誰一人取り残さない学びの機会の確保、地域の課題解決に主体的に参画する人材育成、優れた教員の確保及び教員の働き方改革など各般の施策を進めている。



また、「こどもまんなか」の理念を重視し、学校・家庭・地域・行政それぞれのウェルビーイングの向上を図りつつ、相互連携を更に深め、子どもたちの成長を支えることの重要性を強調し、「北海道教育の日」が道民全体で子どもの教育を考え行動する日として継承されることを願う、とご挨拶があった。

講演「夢と共に歩む」

講師 北海道星置養護学校

車いすラグビーパリアリンピック

校長 浅井 謙作氏

金メダリスト 池崎 大輔氏

講演内容 浅井 謙作 氏

- しょうがい者スポーツが地域に普及していくために
- キーワード：「失われたものを教えるな。残されたものを最大限に生かせ。」
- 池崎選手との出会い
- 障害者スポーツ？
障がい者スポーツ？
パラスポーツ？
- これからのパラスポーツに必要なことは



講演内容 池崎 大輔 氏

- 自分の人生におけるテーマ：挑戦するからこそ成長するし世界が見えてくる
人生の中で今が一番濃い
- 車椅子バスケットボールとの驚きの出会い 車椅子でもスポーツができる！
- 車いすラグビーへ転向
車いすラグビーでの3つの目標
- これからの自分の目標と挑戦



講演の内容は、2月発行予定の「北海道教育の日」実践資料集第19集にまとめているので、是非お読みください。

令和7年 叙勲受章者

「秋の叙勲」及び「高齢者叙勲」を晴れて受章されましたことを心よりお祝い申し上げます。
併せて、益々のご健勝を祈念申し上げます。

◎秋の叙勲受章者

令和7年11月3日 文部科学省発令（発令順 敬称略）

○瑞宝双光章 前田 政和（小）栗山町 菊地 支郎（中）奈井江町
守田 勝榮（小）千歳市 鈴木 徹郎（中）旭川市
五十嵐雅彦（小）札・北区
○瑞宝双光章 蓬田 秀泰（高）旭川市

◎高齢者叙勲受章者

令和7年5月～11月 文部科学省発令（発令順 敬称略）

○瑞宝双光章 末永 爾吉（小）千歳市 松井 英一（小）江別市
小山 善之（小）小樽市 本間 一（小）札・東区
吉田 康夫（中）小樽市 本多 俊博（小）札・清田区
岩崎新一郎（小）札・北区 渡辺 正嘉（小）札・手稲区
福井 庄次（小）旭川市 内田 博也（小）札・手稲区
小川 功二（小）函館市 林原 幸雄（中）函館市
原口 暁（小）旭川市 松尾 隆（併）千歳市
井内 良彦（中）札・厚別区 畑山 喜弘（小）札・中央区
小熊 庸介（小）函館市 西山 達也（小）函館市
武田 捷夫（小）帯広市 鶴賀 孝三（小）札・西区
大川 鋼雄（小）倶知安町 三上 喜治（小）厚沢部町
星 留夫（中）帯広市 橋本 信一（小）札・西区
山崎 裕（小）札・厚別区



全連退だより

7月31日、8月1日、全国連合退職校長会第1回副会長会が開催されました。

1日目、五反田の全連退事務所で、副会長会が行われました。

「報告事項」

- ①理事会・総会のまとめ
 - ②五種校園長会と懇談会
 - ③60周年式典・祝賀会の計画
 - ④各部・委員会の活動状況報告
- について報告されました。

「協議事項」

- ①文部科学省、厚生労働省、総務省への要望書の内容について協議しました。出された意見は次年度の参考にすることになりました。
- ②各地区連絡協議会の現状と課題について交流しました。

いくつか紹介します。

○青森県の退会

○HPやメール活用・DX化、組織運営の改善（東北）

○各県の加入率20%～90%（関東甲信越）

○5県の加入率29%、56%、80%～97%

・役職定年制の見直しを

・教育支援事業の推進（東海北陸）

○会員の減少、養護教諭複数配置を（近畿）

○業務の合理化、経費の削減、賀詞寿詞の改善を（中国）

○会員の減少、会報はゆうメール、地区協議会の運営も厳しい（四国）

○「九州は一つ」九州だより発行（九州）

2日目、文部科学省に行きました。

大臣官房学習基盤審議官 堀野省三氏に、田中会長が要望書を提出しました。その後、各地区の実情や課題について懇談しました。

15分の予定が30分間になりました。その後、副会長は解散し、本部役員が、厚生労働省と総務省への要望書を提出しに行きました。

（佐藤）



情報部

創立80年「北海道算数数学教育会」

北海道算数数学研究会 副会長

札幌市立陵陽中学校

校長 石井 貴司

1 はじめに

北海道算数数学教育会（以下、北数教）は、今年、創立80周年を迎えました。昭和20年代、戦後の混乱の中においても、教育の灯を絶やすことなく、北海道の地で算数・数学教育の礎を築かれた先人の志は、今日に至るまで受け継がれています。以降、学習指導要領の改訂やICTの活用、アクティブラーニングの導入など、教育を取り巻く環境は大きく変化してきましたが、どの時代においても子どもたちに「わかる喜び、考える楽しさ」を教えるという本会の根幹にある理念は変わることなく、脈々と受け継がれております。

近年、社会の急速な変化に伴い、子どもたちに求められる力も複雑化・高度化しています。論理的に考える力、多様な考えを受け入れ共に学ぶ態度、そして自ら問いを立てて解決に向かう力。これらはまさに数学的な素養であり、現代においてますます重要性を増しています。そうした中で、北海道各地の教室において、日々算数・数学の授業を通じて子どもたちが未来への力を育んでいることは、誇るべきことです。

2 本研究会の歩み

昭和21年に第1回の研究大会にあたる北海道中等数学教授研究会が開催されたことを契機として北海道数学教育会が設立され、翌22年には北海道学校教育同好会数学分科会と統合し、北海道科学教育研究会数学部会が設立されました。（昭和26年から北海道数学教育会に発展）これらの研究会は高等学校の教師を中心に組織されたものでした。

小中学校の教師が中心となった研究団体と

しては北海道算数・数学連盟が昭和24年に組織され、毎年、研究会等が開催されてきていました。

昭和33年にこれら2つの団体が一つになり、北海道算数数学教育会が設立され、小学校、中学校、高等学校が一体となった研究団体として、算数数学教育の実践研究を推進してきました。昭和36年には、北海道では初めて、日本数学教育学会の第43回全国算数・数学教育研究（北海道）大会が札幌を会場として開催され、北海道の算数数学教育研究の成果を全国的に展開しています。その後も毎年、全道の研究大会を開催してきており、平成27年には、54年ぶりに北海道で2回目となる日本数学教育学会の第97回全国算数・数学教育研究（北海道）大会が、札幌市を会場として開催されました。80年の歴史の中では、広域性をもつ北海道において、地域のつながりを大切にした全道の研究大会を毎年開催しつつ、北海道の算数数学教育研究を全国展開する機会として、日本数学教育学会の全国大会も開催してきています。

このような歴史ある本会を継続できたことも、長年にわたり算数・数学教育の発展に尽力されてきた諸先輩方、現役の会員、関係者の皆様のご尽力の賜物であり、深く敬意を表します。

3 三校種が一体となった研究団体

2で記載したように、本会は、小学校、中学校、高等学校が一体となった研究団体として、算数数学教育の実践研究を推進してきました。このように、三校種が一体となった研究団体は全国でも本会しかないらしく、研究大会も同地区・同日程で開催していることでも大変稀な組織とされています。

4 中学校部会の取組

中学校部会の近年の取組について、かいつまんで紹介します。

(1) はじめに

本部会では平成28年度から令和2年度まで、「『数学を学ぶことのよさ』を実感する生徒の育成」を目指して研究をすすめてきました。数学的活動を授業の中核に据え、問題解決の授業の構築や現実の事象を数学的に考察する授業の工夫など多様な実践が積み上げられてきたところです。令和

3年度から新学習指導要領が全面実施となりました。そこでは、「生きる力」をより具現化し、育成を目指す資質・能力を「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」として、一層の授業改善を図っています。

(2) 研究主題について

① 数学的に考える資質・能力を育成する。
授業を通して目指したい生徒の姿は、学ぶことそのものに興味や関心をもって自ら問いを生み出す姿や、解決に向けた見通しをもちながら粘り強く解決に向かう姿、思考のプロセスを振り返って次の学びにつなげていく姿である。このような、数学的に考えることの楽しさやよさを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度を育みたい。

② 生徒が「学びをつなげる」とは、授業を通して学んだことを、1単位時間でとどまることなく、既習事項と有機的に結びつけ、条件を変えたり、別の場面に当てはめたりすることである。

また、数学の事象から新たな問題を見だし、解決する過程や解決したことを振り返って統合的・発展的に考察を進めていくことや、日常生活や社会の事象を、理想化したり抽象化したりして表現・処理し考察することも「学びをつなげる」力となる。

このように「学びをつなげる」力を、単元や題材のまとまりの中で、連続性をもたせた数学的活動を通して育んでいきたい。

③ 数学的活動のさらなる充実を目指し、生徒が十分に興味・関心をもって自ら問いを見いだすこと、見通しをもったり、思考のプロセスを振り返ったりしながら解決に向かうことなどを大切にしていきたい。また、生徒が生み出した問いを解決する過程においては、生徒同士の学びが結びつき、新たな視点を得たり、多面的・多角的な理解を得たりすることを目指した協働的な学習活動は欠かせない。

こうした数学的活動を、一定のまとまりでデザインすることが肝要である。

(3) 今年度の札幌大会から

今年度は10月31日・12月1日に、札幌市立陵陽中学校を会場として実施しました。

これまで札幌大会の中学校部会では、1会場で6つの特設授業を設定していましたが、貸切バスの運転手不足や使用料の高騰により、残念ながら各学年1学級ずつ合計3つの特設授業となりました。

単元は「図形」「データの活用」について、また、2日目の領域別分科会では、全道各地から9つの研究発表があり、2日間熱気に包まれた研究大会となりました。

紙面の関係で、具体的な内容まで紹介できませんが、討議で出されたキーワードは、「1単位時間や単元全体で働かせる数学的な見方・考え方の明確化」「習得・活用・探究のバランス」「必要感のある学習課題（問い）づくりの工夫」「生徒が既習事項を基に自立的、協働的に見通しをもつための指導の工夫」「学習形態や交流のさせ方、全体共有の工夫」「次の学びにつながる振り返りの在り方の工夫」「校種間の連携を生かしたり、他教科と結び付けた教科横断的な題材開発や学習活動の工夫」「資質・能力を適切に見取る評価の在り方の工夫」「PDCAサイクルを取り入れた指導と評価の一体化のための工夫」等です。

5 おわりに

ここ数年の出来事として、本会も新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受けました。この間、地区によっては、組織自体の存続に関わる状況に追い込まれたところ、研究大会も対面での実施が難しく、オンライン開催で乗り切った研究大会もありました。

また、近年では物価高、貸切バスの運転手不足や使用料の高騰により、例年、他校からバスで移動し1つの学校で実施していた複数の公開授業も公開数を減らしたり、複数の学校に分散したりして実施せざるを得ない状況になっています。

振り返れば、これまでの長い歴史の中でも、いろいろな困難もあったことと思います。そのような中でも、代々受け継がれてきたこの「学びを止めない」「学びの灯を消さない」という諸先輩の思いは、今後も絶やすことなく引き継いでいかなくはと強く誓ったところです。

支部交流

魅力ある活動を目指して

小樽支部

事務局長 岡田 雅彦

<支部の近況>

小樽支部は昨年度、会費の値上げを行いました。主な理由は、会員の減少による収入減、慶弔費の財政への圧迫、会報等の送料の値上げへの対応等です。総会では会員の理解の基、出席者の全会一致で値上げ案が可決されました。会員からお預かりした会費を大切に適切に執行していきたいと思います。

<主な事業について>

(1) 親睦に関する事業

①新入会員歓迎会 ②花見の会 ③パークゴルフを楽しむ会 ④年忘れ放談会を行っています。

(2) 会員の中から多種多様な趣味や実践を行っている方に講師をお願いして行う研修会です。

(3) 地域の教育振興に寄与する事業

①教育懇談会（退職校長会主催）

市内の教育関係団体(市教委、小中校長会・教頭会、PTA、高等学校、市立幼稚園連合会)等10団体に参加していただき今日的な教育課題についての意見交換を実施し、本市の学校教育・家庭教育・地域における教育力の向上・発展に資することを目的として開催しています。今年度で38回を数えます。

②「ふれあいサポーターの会」を設置し、子どもへのサポート活動

子ども達を巻き込む痛ましい事件が発生し、止まることがない中。教育に携わってきた者として、支援活動ができないものかと協議を

重ね、平成16年8月から組織的に取り組む活動が始まりました。

趣旨に賛同する会員を集め、会員の居住している校区の小学校の通学路を巡回して、子ども達への挨拶・呼びかけと安全確保を行う支援活動を行っています。

活動日は、長期休業前後の10日間とし、春、夏、冬の60日間としています。活動を通して地域の人たちとの信頼関係が強まり、支援活動の成果が出てきています。

平成25年、一般財団法人「教職員生涯福祉財団」の「地域社会活動支援奨励事業団体」として認められ、奨励金をいただきました。

また、平成28年、教育新聞社発行の教育新聞で全国に紹介されました。

小樽市における教育支援活動推進事業に中の『樽っ子学校サポート』事業に協力・学校支援ボランティアとして登録し、学校からの要請により学習支援を行っています。

スキー学習の支援については、学校からの要請を受けて支援してきましたが、会員の高齢化のため中止となっています。しかし、会員個人々々での支援は行っています。

小樽支部は、令和9年度に創立50周年を迎えます。今年度は準備委員会を立ち上げ、式典や祝賀会の持ち方、記念誌の発行について検討しているところです。ただ、冒頭にも書きましたが一番の悩みは予算です。40周年時の収支決算書を見ると、当時のような予算を立てることは困難なことがわかっています。これから知恵を出し合い、いろいろ工夫をして乗り切っていきたいと思っています。



▲市議会議員団との懇親会



広 場



冬の断想（学生時代の思い出）

札幌白石支部 伊 藤 祐 二

冬の北海道は、その猛々しい風貌を顕にし、幼い頃の白い恐怖を蘇らせる。

かつて私は、日本から数千キロメートルも離れた地で正月を迎えたことがあり、その正月は、冬というにはあまりにも暑すぎたのですが、現実的にはそれまで私が経験した冬の冬よりも寒く戦慄すべき状況の下での冬でもあったのです。学生時代の私は、インドのパトナで新年を明かしたのですが、意識としては、現在の私の生活とは無縁の地平においてのみ位置づけられてしまい、そしてそれが、あたかも当然かのように、何の疑問も持ちえないままの行為が、時空間を越え、現在の私の心に回帰してくるのです。

あれから55年という歳月が過ぎ21世紀も4半世紀が経ちました。私の心には、何も始まらず、何も終わらないという奇妙な空隙（くうげき）が広がるのです。その空隙に、インドから吹くなまあたかい風が吹き込み、私に何か想起させようとするのです。

インドのアグラーには、アラビアンナイトから抜け出したようなタージマハールという宮殿がありますが、まさに55年前、私は、その本堂に立ちつくしていました。空気は微動だにしませんでした。熱気が天上から絶え間なく、ゆっくりと降りてきて、タージマハールを熱の幕で幾重にも覆うかに思えました。大理石の照り返しとブーゲンビリアの匂いと、全き静寂の中で私の意識は、溶けていきそうでした。そのとき私は、インドに古くから存在するニルヴァーナという観念につきあたりました。これは覆いのないことを意味し平安と静寂が支配する境地です。

ニルヴァーナこそが、我が青春の最大の謎でありオブジェだったのです。

猛暑・豪雪に耐えつつ

東十勝支部 斉 藤 博

朝4時起床、涼しいうちに野菜に水を遣り、キュウリ・ナス・ピーマンなどの収穫作業を終える。朝食後はエアコンを入れて家に閉じ籠る。4日連続で猛暑日となった7月後半の日課である。暑さに慣れない生粋の北海道人にとって、連日30℃超えの暑さは堪える。

150坪の畑が付いた家に住み始めてから野菜作りに勤しんでいる。始めは「家周りに雑草を生やしておくのも」と思って半分仕方なく始めた野菜作りだが、これが実に嬉しい。

毎日畑に出て作物を見て、あれやこれやと手を掛ける。良く見て沢山手を掛けるほど作物は良くできるのである。現職の時の毎日に通じるところがあるなあと感じている。

今年初めてスイカに挑戦したら、とても美味しいスイカが採れた。以前に比べて北海道で採れる野菜も変わってきているようだ。かつてはサツマイモを植えても、細くて筋ばかりのイモしかできなかったと記憶している。それが今は、露地栽培で美味しいサツマイモやスイカ、オクラなどが普通に採れる。

今年2月4日、十勝では1日に120cmを超える記録的な降雪があり、3日間も公共交通機関がストップして、小中学校は臨休となった。家の周りの除雪だけでも一日掛りの大仕事で閉口した。地球温暖化が言われて久しい。各地で今までにない猛暑や豪雨、豪雪、竜巻、森林火災などに見舞われ、温暖化が原因と言われている。誰かが主張するように決してフェイクニュースではなく、科学的な観測データを基にした学説であり、その対策が急がれる。

「スイカが美味しかった」などと油断していたら、この冬もまた大雪の後片付けに追われるのでは？と心配している。

「たかが…」 「されど…」

渡島支部 海 野 厚 二

退職して5年目を迎え、現在は地元の教育委員会に勤めております。退職当時は、座ったままの仕事が多いため、運動不足になっていたようです。体重も増え、体型を指摘されることも…。中には「お前、そのうち死ぬぞ」と厳しいアドバイスをしてくれた先輩もありました。

そんな折、退職して3か月を過ぎたところから、運動不足解消のためにウォーキングを始めることを決意しました。体育教員であった私は、運動やトレーニングは走ることが基本という意識がありましたので、「たかがウォーキング」と軽く思っていました。が、始めてみると、なかなか奥深いものがありました。最初は、時間を設定して挑戦、そのうち歩数が気になり、万歩計やスマートウォッチで測定をするようになりました。

職場で毎年、約8週間の期間実施するウォーク・ラリーにも参加するようになりました。体育系で負けず嫌いの私は、歩数記録や順位も意識するようになり、真剣にウォーキングに挑戦するようになりました。そして、最初は運動不足解消で始めた「たかがウォーキング」でしたが、自分なりにウォーキングの魅力を感じるようにもなりました。健康増進、健康寿命の延伸、汗をかいた後の爽快感、そして歩いているときに今まで気が付かなかった風景や季節の移り変わりを感じたり、行き交う人との挨拶のすがすがしさ、また1日の出来事を振り返ったり、今後の予定を考えたりする時間にもなったりしています。

また、ウォーキングの時間を生み出すための時間の確保が規則正しい生活習慣の確立にも繋がっているような気がします。先日、久しぶりに犬の散歩をする方にお会いしました。「お久しぶりですね。お元気でしたか。」とを掛けられ、何とも言えない「ほわっと温かい気持ち」になりました。私にとっては、最初は「たかがウォーキング」でしたが、現在は貴重な「されどウォーキング」です。

書との出会いから生きる喜びへ

帯広支部 佐 野 悦 子

退職と同時に未知の世界に舞い込んだ。小学生の頃、習字には、コンプレックスがあり劣等感の負の心は払拭できないままだった。

書道への重い扉を開いたのは、卒業時の生徒への色紙の揮毫だった。中学校3年間の青春の日々を思い出す時、泣き笑いや苦悩の日々が脳裏に浮かび、瞬時に伝えたい思いが溢れ、スラスラ描ける自分に驚いた。筆を持つと書きたい衝動と楽しさで過去の苦手意識は薄れ仕事を終えた深夜の創作も苦にならなかった。出来映えはともあれ、のびのびすることでイメージが膨らみ、意欲も高まった。当初は、卒業生20名ほどの色紙だったが退職時には全校生徒200名を超える銭の色紙制作になっていた。生徒は「味がある」と褒めてくれ「飾っています」「有難う」とお世辞にも励ましてくれた事が嬉しかった。

教職を終え、還暦を迎えた第2の人生の始まりの日、偶然に訪れた書家八重柏冬雷先生の個展で前衛書の存在とその魅力にとりつかれた。今まで見たことのない書道の芸術性は、圧巻で書道熱が高まった。以来、先生の書道教室に通い仲間たちと研鑽を深めている。

日々の生活は、健康状態の善し悪しと共に変化し、時代の風を受けるもの。そんな中、毎年書道展に出品することで東京の美術館を巡り鑑賞する機会が増え、その楽しみは、心を豊かにし、その感動は、希望や勇氣に変わった。昨年は、能登に生きる人々の復興の心の力強さを「立ちあがる～NOTO」に表現し、今年は、古稀を迎え「心延え（こころばえ）」を動的な心の内面をばんば馬の尻尾筆で表現し、自らの生きざまを表現してきた。

今は、古代文字に魅せられ陶の壺や板に刻字し、自らの手で五感をはたらかせて“創ることは、喜びである”ことを実感している。

そんな時「無になる自分」がいて、わくわく感がたまらない。新しいことや未知への挑戦と言うより、好奇心旺盛な冒険の始まりといった私のいきいき人生今日この頃である。

マイペースで花を咲かす 花さか爺さんに

札幌中央支部 小 西 俊 之

早いもので定年退職し10年目を迎えた。「光陰矢の如し」ではないが、大河のようにゆったりと確実に流れていく時のパワーを実感するこの頃だ。6月には同期退職の会の仲間10人が定山溪温泉に集まり、古希を祝うプチ旅を楽しんだ。バカ騒ぎする皆の顔から元気をもらう。年に一、二度集い、語り合える仲間がいることに感謝！

定年退職後は、教育大学キャリアセンターで相談員を5年行った。コロナウィルス流行で後半は対面活動を制限されたが、センター職員の皆さんのおかげで最後までやりきることができ感謝！

次に、市教委ボランティアの小中一貫した教育コーディネーターを2年間させていただいた。まだまだコロナ禍対応を引きずる中、校長先生をはじめ先生方の協力でなんとか形をつくることができ感謝！67歳になり仕事はそろそろいいかなと思っていた矢先、先輩から同窓会の仕事を頼まれ3年目となった。事務局業務は現職の先生方と連携協力してこなしているが、文書作成でのミスがたまにありショック！老化は着実に目から始まっているようだ。会館の維持管理は一人仕事なのでマイペースで楽しめ、老化防止にもなり感謝している。

この間の健康面は、持病も表れず良好であったが、昨年厄介な病気が見つかり、あと少し治療を続ける予定。自覚症状はなく、早期発見により手術をせずに済んだことに感謝！自分の身体と向き合う良いきっかけとなった。これからは一年一年老化が進んでいくものと考え、健康に留意しなければならないと思う。

同窓会館の庭に毎年見事な花を咲かせていた樹齢30年のコブシが咲かなかった。葉も出ず立ち枯れたかと心配したが、7月に幹のところどころに枝葉が茂りはじめた。隔年開花というらしい。長く花を咲かせるための樹木の知恵に感心する。来春の開花を祈る！

デジタルの向こう側

北見支部 菊 野 淳 一

メタバース（仮想空間）での不登校支援事業を立ち上げるということで予算が計上され、この4月から市教委で窓口兼相談員を担当しています。業者が選定され、システムの説明を受け、電子版チラシを全保護者に配布し、希望者を募って、夏休み明けの8月下旬にスタートしました。

昨年度まで市の教育支援センターで子どもたちとリアルに接していた5年間との違いは予想以上です。

◆顔が見えない。◆文字チャットなので声もわからない。◆名前も容姿も自分好みのアバター（分身）に扮する。◆学校・学年など互いの個人情報是非公開。◆入退室の時間の縛りも緩やか、等々。

それでも、私（アバター名：キクリン）が同席する条件で自由参加のグループチャットをすると、たわいのないやりとりの中に、ほんやりとですが各々の性格が見えてきます。

彼らには利用を始めるときにドキドキ感はあるけれども、変な気負いはありません。まずは慣れてもらうことが第一です。知りたい、突っ込みたい気持ちをぐっところえて、「せかさな、深入りしない、ネガティブな言葉かけをしない」を心がけています。

現在、利用者は小1から中3までの11名。市の不登校児童生徒のごく一部ですが、仮想空間だとしても一歩「外」へ出てみることに意味があります。ちょっとでもだれかと接点をもつことが社会的自立に通じると信じてデジタル画面の向こう側にいる彼らと向き合っています。





■令和7年度 理事会①

(令和7年7月1日)

ホテルライフオート札幌)

令和7年度事務局及び各部の事業計画などが承認された。

■第1回会務運営検討委員会

(理事会終了後、同日同会場で開催)

各地区の実情を踏まえ、会務を厳選して持続可能な運営を求めていくことを確認した。

■令和7年度全連退副会長会①

(7月31日・8月1日 東京事務所)

佐藤会長参加。文科省等各省庁への要請活動を行った。(教育の現状、退職後の現状など)

■令和7年度「道東北見・網走地域懇談会」

(令和7年9月20日)

北網圏北見文化センター)

佐藤会長、大向副理事長が参加。北見市立中央図書館の見学後、懇談会では全連退情報や本部業務の説明、網走支部、北見支部の活動状況について交流した。

■全連退設立60周年記念式典・祝賀会

(令和7年10月7日)

アルカディア市ヶ谷)

佐藤会長、永峰顧問、黒坂顧問、千田顧問参加。

■令和7年度 役員会・支部代表者会

(令和7年10月21日)

ホテルライフオート札幌)

午前中に役員会。午後からの支部代表者会では、各部の進捗状況、中間決算監査報告が協議された。続く支部交流では、「道東北見・網走地域懇談会」の報告があり、会務運営検討委員会のたたき台を基に、今後の会務運営の在り方について熱心な意見交換がなされた。

■「北海道教育の日」第18回制定記念行事

(令和7年11月4日)

ホテルライフオート札幌)

テーマ「あなたはだれのために、何ができますか？」子どもたちに「共に歩もうとする力」を

記念講演：「夢と共に歩む」

講師：北海道星置養護学校長

浅井 謙作氏、

車いすラグビーパラリンピック

金メダリスト 池崎 大輔氏

が実施された。

(鈴木)

事務局日誌 令和7年8月分～令和7年11月分

<令和7年8月>

オホーツク(北見・網走)

1日 創立60周年記念誌
「道程」発行

30日 事務局会③

5日 事務局会②

<10月>

3日 中間監査

7日 「北海道教育の日」
事務局会

7日 全連退60周年記念式典

10日 組織部会

29日 会報249号発行

21日 役員会・支部代表者会

<9月>

2日 拡大事務局会②

28日 「北海道教育の日」

事務局会

9日 「北海道教育の日」

<11月>

事務局会

4日 「北海道教育の日」

制定記念行事

18日 「北海道教育の日」

幹事会

13日 広報部会

20日 地域懇談会・

25日 事務局会④

謹んでおくやみ申し上げます

(敬称略)

松岡 英一(96)個人	7.7.6	川端 信義(90)小樽	7.10.1
石川 保(87)札・豊平	7.7.7	安井 能彦(72)小樽	7.10.5
柳田 幸男(92)函館	7.7.22	井内 義親(93)札・西	7.10.8
杉村 光勇(86)函館	7.7.23	今井 誠孝(93)帯広	7.10.9
岩佐 正治(87)函館	7.7.24	錦見 與助(91)札・北	7.10.15
吉田 伸弘(91)小樽	7.8.16	三上 邦重(78)旭川	7.10.17
野村 雅俊(86)帯広	7.8.28	佐々木英明(87)檜山	7.10.18
福田 義興(85)帯広	7.9.8	大澤 賢治(70)旭川	7.10.23
寺沢 久光(90)渡島	7.9.11	坪田 昭司(93)北広島	7.10.25
鎌田 佳宣(87)旭川	7.9.11	藤澤 信弘(85)函館	7.10.28
水口 忠(95)小樽	7.9.14	北 健三(90)北広島	7.11.10
池田 齊(78)帯広	7.9.18	三浦 渉(76)旭川	7.11.13

広報部より ～会報249号巻頭言の訂正について～

8月29日発行の、道会報249号の会長による巻頭言「一支援られて」につきまして、文の後半部分が載っていませんでした。編集段階での手違いによるものです。執筆者並び会員の皆様には大変ご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。巻頭言の全文につきましては、北海道退職校長会のホームページにてご覧になれます。

60周年記念誌編集部より

～60周年記念誌「道程」69頁の訂正について～

広場69頁上段、木村以久子さんの所属が函館副支部となっていました。正しくは函館支部です。執筆者並び会員の皆様には大変ご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。

編集後記

広報部として、初めて「退職校長会だより」の編集を担当させていただきました。不慣れでご迷惑をおかけした点があったと反省しております。今号に執筆・投稿して下さった皆様に心より感謝申し上げます。

寒さが厳しくなってきましたが、会員の皆様にとっ
て新年も健やかで佳い年になりますようお願いしております。(北原)

■印刷所 展文社総合印刷株式会社

札幌市西区八軒7条西6丁目2番7号

電話(011)676-9898